

4-5					
主題	ボランティアという社会資源を繋げる地域密着型複合施設としての取り組み				
副題	地域交流スペースを利用した、利用者・地域住民との交流支援				
キーワード 1	ボランティア	キーワード 2	地域交流スペース	研究(実践)期間	7ヶ月

法人名・事業所名	社福) マザアス 地域密着型複合施設マザアス新宿				
発表者(職種)	中村美奈子(生活相談員)				
共同研究(実践)者	黒森大介(生活相談員)				

電話	03-5285-2530	FAX	03-5285-2535		
----	--------------	-----	--------------	--	--

事業所紹介	地域密着型複合施設マザアス新宿は、旧中学校跡地を使った新宿区の複合プロジェクトの一つとして平成 22 年5月に開設いたしました。地域に密着した社会福祉法人の介護サービス形態で、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるよう支援することを目的としています。				
-------	---	--	--	--	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当施設の利用者の平均要介護度は4.7と重篤化している中、施設で生活をしている利用者地域社会を繋ぐ手段としてのボランティアの活躍の期待は大きい。開設時期からボランティアが活動を開始しており、現在は、ボランティアの活動をする事に特化し代わりばえないマンネリ化の状態となっている。よって、ボランティア活動の基本的な意識(自主性・主体性、社会性、創造性等)の中で、特に自主性が乏しくなりボランティアコーディネーターが不可欠となっている。その中で、昨秋よりボランティアコーディネーターが不在となり、継続的な支援が不足している状況であった。

地域密着型複合施設として利用者が家族や地域住民と交流していく場であるために、地域交流スペースを開放し、ボランティアは地域住民が施設を利用することで活動のやりがいを認識し、社会資源を繋げる施設としていくことを目的としている。ボランティアの受け身的な意識を変化させ、自発的でやりがいのある活動としていくことが課題である。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

現在、施設では、地域安心カフェ・お茶会・てづくりカフェ・健康いきいき体操・フラダンス等を開催している。ボランティアが自主性・主体性の活動の中で、個人の地域社会参加を実感し、やりがいを再認識する。ボランティアに自主的な活動の見直しをしていく。

ボランティア・利用者・利用者家族などは地域交流スペースを利用して地域住民でもあり様々な社会資源を繋げる・繋がる施設としていくことを目的に取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

地域交流スペースを地域住民が利用することで、ボランティア活動のきっかけとなる取り組み。

・地域安心カフェ「カフェマザアス」(新宿区委託事業) 毎月1回14時より15時半開催。入場無料。飲み物・お菓子代:200円(希望者)

プログラムを、1部制から前半・音楽演奏や講演、後半・スポーツ吹き矢の2部制にし、幅広い人に

参加できるものにした。ボランティア主体型で活動することを目標に、役割を分担しローテーション化した。カフェのプログラムに地域の学生や演奏団体等のボランティアに参加していただき地域交流スペースに地域住民が気軽に交流できる場とした。また、開催の発信の広報掲示等を強化し、地域安心カフェを地域住民に周知した。近隣の地域カフェに相談員が参加し、他のカフェと交流し改善案を提案、ボランティア自身の気づきにつなげる。

- ・新宿いきいき体操・健康フラダンス 毎月1回開催。14時半より15時開催。参加費無料。

- ・お茶会 不定期に1回開催。14時より15時半開催。参加費：250円（お茶・お饅頭代）。

場所をフロアから地域交流スペースに移動し地域住民も参加できるスペースを確保した。利用者中心から、地域住民の参加ができるように広報を行い、利用者・ボランティア・地域住民の交流の場へと定着していく。

- ・てづくりカフェ 月1回開催。14時より16時開催。材料費：500円。

利用者参加を目的に、従来通りの素材（A型）と、半製品の状態から作成し完成を目標とする（B型）の2種類から選択できるようにした。

- ・その他、施設の取り組み

ボランティア室を整頓し、活動しやすい場所を提供する。ボランティア登録簿の再作成、アンケートを実施し、適材適所の把握・提案する。地域交流スペースの窓に季節の装飾を利用者・ボランティア・職員他と作成し、明るく親しみやすい交流の場を作る。

《4. 取り組みの結果》

・「カフェマザラス」ボランティアから地域住民に発信するなど自発的に広報するようになった。開催直後に課題を出し合い、演奏等のボランティアを紹介・プログラムの提案などの発言が出るようになった。若い親子・大学生・地元の演奏者など新しい地域住民が催しに参加し、昨秋地域参加者0名から実践期間は平均13名となり地域住民との交流が増え、活気が出てきた。受付・キッチン・配膳と役割分担が定着し、個々の責任感が出てきた。欠員時に各自がフォローできる体制ができボランティアからの自発的な活動にシフトしてきている。広報活動により、他の施設に移ったボランティアと話す機会ができ、当施設での活動が再開した。

・「てづくりカフェ」半製品（B型）を導入することで、利用者が参加するようになった。また、ボランティアを増員したことで利用者と個別で対応できるようになった。

・ボランティア登録簿の再作成、アンケート等より、ボランティアの適材適所の配置への構想案ができ、ニーズへの対応につなげる準備ができた。

- ・地域交流スペースを、新宿区空きスペースに登録した。地域交流の場としてさらに発信していく。

- ・社会福祉協議会等と連携し社会福祉協議会等の仲介で、ボランティアが増員した。

《5. 考察、まとめ》

ボランティアに無理のない活動をと声掛けし、実現している。ボランティアの目的は、社会参加の場として活動している方が多い。その中でボランティア活動の基本的な考えを皆で振り返り、意見を聞くことができた。沢山の方々に支えられ、地域密着型複合施設で私たち職員が支援している事を自覚し、協働していくことをこれからも意識していく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・社会福祉施設のためのボランティア・コーディネーション ガイドブック 東京ボランティア・市民活動センター

《8. 提案と発信》

地域交流スペースを利用者だけでなく、地域住民との繋げる・繋がる場へと、始まった企画です。ボランティア活動の基本に戻り「ともに支え合い、学び合う」を合言葉に、ボランティアの目線・思いを聴き、更なる地域交流の場としてこれからも変化し続ける施設でありたいと努めていきます。